スマート・テロワール協会地域活動支援事業参加申込書

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |
| 申込者情報 | 区分 | ● 個人　　　◯ 団体　（どちらかを●に） |
| 団体名 | 愛媛県立土居高等学校情報科学部　（商業科教諭） |
| 個人名 | 徳永　俊一 |
| 団体代表者名 |  |
| 住所 | 勤務先：愛媛県四国中央市土居町中村892番地 |
| E-mail |  |
| 電話 |  |
| 活動地域 | 四国中央市、新居浜市 |
| 活動概要 | ■活動概要独創的な教育方針により、生徒の可能性を引き出し、何もないところから新しい価値を生み出してきました。例えば盆栽などの地域資源を生かした街づくりの構想やシビック・プライドの醸成です。■活動経緯これまで授業（商業）で学んだ学習をもとに、教室を離れ世の中に通じる実験やビジネスモデルの開発を行ってきました。愛媛県立でありながら、地域資源である盆栽の魅力を再開発し、在日外国人を対象に高校生と教師らが企画主導したツアーを組んで盆栽文化を世界へ発信しました。2018年には四国初の観光甲子園日本一に輝き、観光庁長官賞、四国中央市長賞、愛媛県知事賞、文部科学大臣表彰（教職員組織）など次々と受賞。一躍注目される存在となりました。そしてついに2020年には、内閣官房と農林水産省の有識者懇談会より地域活性化の模範事例として『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』（第７回選定）授与に至りました。これまで全国大会５回優勝。他表彰は多数。マスメディアからも数えきれないほどにパブリシティ報道して頂きました。感謝しかありません。一方、社会奉仕と地域貢献にも力を注いできました。観光甲子園副賞（10万円旅行券）を西日本豪雨災害復興支援として全額寄付、修養団賞や日本財団から感謝状を頂いたのはその一例です。2019年に盆栽を核とし高校生らが企画主導したインバウンドツアープランを国内で初めて商品化しましたが、1度目は失敗。２度目の挑戦でリベンジできました。翌年、コロナ禍のなか、全国初のインターネットで観光名所をめぐる四国版「オンライン体験フェス」に挑戦、盆栽の魅力を伝えて双方向の学びを提供しました。■活動の成果2020年、全国高校生ＳＢＰフェアにて『盆栽文化と盆栽景観等のユネスコ世界遺産登録への挑戦』プロジェクトを発表。翌年、全国ビジネスコンテスト（経済産業省 中小企業庁）にてファイナリスト（全国トップ８）となり、今年度の『経済産業省 起業家教育プロジェクト』に選ばれました。このほど地元ユネスコ協会総会で講演させて頂き、地元テレビ局より放映されました。 |
| 活動詳細 | 目指す姿 | 「学校教育と地域社会（ビジネス）を融合した新しい社会の実現」の一環として、高校生と教師らが核となった『盆栽（地域資源）を生かしたユネスコ世界遺産登録を目指した街づくり』です。これを日本商業教育学会全国大会（福岡大学）と地元ユネスコ協会総会で発表しました。このＥＳＤ（ＳＤＧｓ実現の創り手を育む教育）の先進モデルとしての第一段階となる「①多言語（７か国）紹介動画の世界発信」、「②赤石山系の自然環境調査」、「③高校生と教師が企画主導するインバウンド盆栽ツアー商品化の実施」を目指します。 |
| 達成時期 | 2024年3月 |
| マイルストン | 多言語紹介動画の世界発信（インターネット、ＳＮＳなど）、赤石山系の自然環境調査の実施、インバウンド盆栽ツアーの実施。 |
| 重点課題 | 高校と地域・支援団体等をつなぐ人材の在り方、コーディネート機能の創出、組織体制の構築と運営、外部資金の運用。 |
| 進捗状況 | インバウンド盆栽ツアーの実施（モニター）、情報発信（むらの宝、産経ニュース（2022年2月26日）、文化愛媛85号、社会教育911号、商業教育論集31集など）、パネル展（あいテレビ、東予信用金庫、土居高校）、海浜漂着プラスチック調査・清掃活動（地元海岸）、多言語紹介動画の制作（７か国）、世界遺産学習など |
| 協力者 | 四国中央市、四国中央ユネスコ協会、赤石五葉松盆栽組合、土居高校、愛媛大学、愛媛県東予地方局、愛媛県紙パルプ工業会、ＪＡうま、四国中央テレビ、新居浜市国際交流協会、愛媛ＳＧＧクラブ新居浜支部、盆栽清香園、高松盆栽の郷、盆人プロジェクト、㈱ハリウッドラテ、タムラデザイン、しがローカルＳＤＧｓ研究会　他 |
| 総予算 | 1,000,000円（概算） |
| 支援希望形態 | ● 資金支援　● 助言支援　● 協業支援　（可能な限りで） |
| 支援希望額 | 1,000,000円 |